

みくに



〈豊島の桜〉

2025年 標語聖句

[希望の計画]

あなたたちのために立てた計画・・・
それは平和の計画であって、災いの計画ではない。
将来と希望を与えるものである。

エレミヤ書 29章11節

社会福祉法人 みくに園

障害者支援施設 みくに成人寮

TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1

HP: <http://www.teshimamikunien.com>

「おにぎりのように」

～進化と継承～

厨房主任・管理栄養士
近本 春陽

この春、みくに園に新しい職員が加わり、施設にはフレッシュな風が吹き込まれています。慣れない環境の中で懸命に取り組む姿は、私たちにとっても新鮮であり、忘れかけていた「初心」を思い出させてくれる大切な存在です。それぞれの立場や役割を超えて、利用者さんのために同じ方向を見つめながら歩んでいける、そんな関係を築いていけたらと思います。

さて、昨年放送されたNHKの連続テレビ小説「おむすび」では、管理栄養士という職業に光が当てられました。ひとりの実務者として非常に嬉しく、また誇らしく感じました。「食べることは未来をつくること」というテーマが掲げられていたように、食の力は人の命と心を支える大きな柱です。

日本の食の歴史を振り返ると、かつては低栄養が大きな課題でした。国は明治時代に栄養学を取り入れ、戦後の混乱期には栄養士制度を整備し、栄養改善に取り組んできました。その結果、日本は低栄養から脱却し、平均寿命は江戸時代の1.5倍以上となり、世界に類を見ない健康長寿の国となりました。これは、伝統的な食文化を大切にしながら、欧米の食の知恵をうまく融合させてきた先人たち、特に栄養士の努力の賜物だと言えます。

一方で、現代はテクノロジーの進化が目覚ましく、食文化も大きく変化しています。スマートフォンひとつで、外出することなく温かい食事が手に入る時代。医療や福祉の分野でも、温めるだけで病態に応じた食事が提供できるようになり、完全食と呼ばれる食品も登場しています。忙しい現代人にとっては、これらはまさに時代に即したスタイルかもしれません。

しかし、食べることは単に生きるための手段ではなく、人と人をつなげ、新しいものを生み出す力でもあります。急速に変化する社会の中でも、私たちは日本の伝統的な食の知恵や温かさを大切にしながら、必要なところにテクノロジーを取り入れていく—その“塩梅”を見極め、伝えていくのがプロの管理栄養士の役割なのかもしれません。

「おにぎり」のように、時代が移り変わる中でもその形を大きく変えることなく、長く人々に愛され続けている食のかたちがあります。そんな「変わらない良さ」と「変わるべき進化」のバランスを大切にしながら、私たちがまた、日々の実践の中でよりよい未来を紡いでいければと願っています。

～季節を感じる特別な日～

一般棟 小澤 拓也

正月を過ぎ、うらかな日和を心待ちにする日々の中に、みくに園一般棟では3つの“季節を感じる特別な日”を用意しました。まずは2月の初旬、節分にあわせて2体の鬼が登場！利用者さん達は豆撒きならぬボール撒きを行い、厄災を払った後にお菓子の詰め合わせを食べました。



バレンタインデーには、園の近くにあるお馴染みのお店「いちご家」さんを貸し切り、旬のイチゴがふんだんにのった特製パフェを堪能。口いっぱい広がる甘酸っぱさとクリームのもろやかさに、思わず「おいしい！」と笑みがこぼれました。中には「また来たいね」と、早くも次回を楽しみにする声もありました。



3月に入ればすぐにひな祭り。皆で福笑いで大笑いしながら過ごした後、おやつタイムには、お隣り小豆島では知らぬ者がいないと言われる銘菓「オムレットサンド」が登場。ふわふわのスポンジに、クリームがたっぷり。「やっぱり地元のお菓子はおいしい」と話す方も。春の訪れを祝う、にぎやかなひとときとなりました。

平穏な日常の中に点在する特別な日を、利用者の方々には知らされた時から（あるいは、その前から予想を立てて）心待ちにしています。

我々一般棟職員はそんな気持ちに応えるべく、今後とも季節や地場の良さを感じられるようなイベントを企画し続けていきたいと思っています。





お花見

春の訪れとともに、毎年恒例のお花見イベントを開催しました。今年も美しい桜とお花見弁当を堪能し、利用者みなさんと職員が共に、楽しいひとときを過ごしました。



NHK歳末たすけあい寄付金助成

助成事業名 高齢者棟食堂壁掛け50型テレビ設置事業
NHK寄付金 100,000円
自己資金 38,380円



このたび、令和6年度（第74回）NHK歳末たすけあい寄付金助成を頂き、高齢者棟の食堂に50型テレビを設置いたしました。

利用者みなさんにとって、テレビは日々の楽しみの一つです。現在もYouTubeやDVDを活用して、懐かしい歌やドラマを楽しまれており、そこから職員との会話が広がる場面も多く見られます。

今回導入したテレビは、これまでのものより画面が大きく画像も鮮明で視認性が向上しました。また、リモコンにYouTubeなどの機能が内蔵されており、操作も簡単になっています。これにより、利用者みなさんが自分で観たい番組を選び、快適に楽しんでいただけるようになりました。この新しいテレビの設置を通じて、日常がさらに充実し、施設での生活がより楽しいものとなることを期待しています。助成を賜りましたNHK歳末たすけあい様に心より感謝申し上げます。

〈高橋 記〉

障害者支援施設による実習生の受け入れ

障害者支援施設では、福祉の未来を担う実習生の受け入れが重要な役割の一つとなっています。

みにくに園でも毎年約10名の実習生を受け入れています。実習生は、福祉の現場での経験を通じて、障害のある方々への支援のあり方を学び、実践的な知識と技術を身につけます。

実習では、利用者さんとのコミュニケーションを通じて個々のニーズを理解し、適切な支援方法を模索することが求められます。また、施設職員の指導のもと、介助技術や日常生活支援、レクリエーション活動の運営などを体験し、福祉の専門職としての基礎を築いていきます。

施設は、実習生にとって単なる学びの場ではなく、実際の福祉現場を知るための貴重な機会を提供する場でもあります。実習を通じて、福祉の仕事のやりがいや意義を実感してもらい、将来的に福祉の担い手となる人材の育成を図ります。また、施設側にとっても、実習生の受け入れは、私たち自身の成長につながる機会でもあります。

今年度も積極的に実習生を受け入れ、福祉の担い手を育てるだけでなく、私たち自身も学びを深め、より良い支援を提供できるよう努めます。

〈高橋 記〉



〈実習生さんとハンバーガーショップのイベント〉



〈実習生さんによるレクリエーション〉

* 新任職員紹介 *



〈辞令交付式〉



加藤千尋

所属：一般棟
生活支援員

趣味：読書・旅行

おすすめスポット：京都三千院



田川桜

所属：高齢者棟
生活支援員

趣味：音楽を聴くこと
好きな歌手：乃木坂46

* 高齢者棟の責任者として古川由実が任命されました。よろしくお願いいたします。

* 行事 *

- 4月 1日 辞令交付式・お花見
- 5月 2日 春休み開始（帰省日）
- 5月 7日 春休み終了（帰寮日）
- 5月18日 豊島地区連合運動会
- 5月20日 環境整備（草刈り・水路掃除）
- 6月9日～21日 高松大学実習生受け入れ
- 7月 夏祭り

河島淳子先生が、ご永眠されました。

みくに園の自閉症療育において、長年にわたり多大なご尽力をくださいましたトモニ療育センター所長の河島淳子先生が、令和7年2月10日に永眠されました。

先生は、私たちに「知識ある愛、行き届かせて」という教えを遺して下さり、その教えは今も私たちの中で生き続けています。先生のご功績に対し、深く感謝の意を表します。

職員一同

編集後記

新しい季節の訪れとともに、『みくにだより』をお届けできることを嬉しく思います。

みくにに便りでは、利用者のみなさんの日々の活動や笑顔あふれる瞬間をお伝えするとともに、支援の現場での新たな取り組みや職員の想いも紹介いたします。誌面を通じて、少しでも多くの方に私たちの取り組みや、利用者のみなさんの素晴らしい日々を感じていただければ幸いです。

これからも、より充実した内容をお届けできるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

編集部一同

* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920

みくにだより編集部：（165号 2025年4月発行）